

人文会ニュース

1996. 12

〈人文会研修旅行特集〉

紀伊國屋書店熊本店より	中村勝治	I
ジュンク堂書店鹿児島店	三原健作	4
鹿児島大生協書籍部	熊川隆幸	7
人文会研修旅行報告	弘報委員会 浴野英生	11

「論点公開」に対する意見

—— 出版物再販制度の果たす役割 ——

..... (社)日本書籍出版協会

(社)日本雑誌協会

ミネルヴァ書房

第39回日経・経済図書文化賞(第18回サントリー学芸賞)
アジア間貿易の形成と構造

杉原 薫著 独自の分業体制がアジアに出現した、その歴史的意義を解明。●重版出来●六六九五円

中国の歴史

J・K・フェアバンク 著
—古代から現代まで—
大谷敏夫・太田秀夫訳 中国文明の発祥から現代までの通史。米中国史研究の泰斗の遺作。四九四四円

大英帝国のアジアイメージ

東田雅博著 「文明化の使命」という、ヴィクトリア時代の時代精神の変化を分析する。三六〇五円

〒607 京都市山科区日ノ岡堤谷町1番地
TEL 075-581-0296 振替 01020-0-8076

日本人の出現

胎動期の民族と文化
●諏訪春雄・川村湊編
定価2575円

音の原風景

日本から世界へ
●佐野清彦著
定価2266円

いれずみ(文身)の人類学

●吉岡郁夫著
定価2472円

日本仏教改革論

●松濤弘道著
定価2266円

雄山閣

* 価格は税込みです。

千代田区富士見2/振替00130-5-1685

未来社

パウル・ツェラー

若き日の伝記
多感な少年時代を経て、ナチス侵攻の嵐の中、両親を強制収容所で殺され、戦後世に出るまで詩人の前半生を描く名著
定価3605円

反復論序説

湯浅博雄
ブルースト、ソレルス、ランボーらの文学テクニクからフロイト、ラカン、ドゥルーズらの理論を通して反復の主題を読解
定価2884円

オーストリア・ファシズム

タロシュノ
ノグバウアー編
「一九三四年から一九三八年までの支配体制」独自の「オーストリア・ファシズム」の動きを明確に提示した画期的な論文
定価2884円

〒112 東京都文京区小石川3-7-2
☎(03)3814-5521 FAX(03)3814-8600



有斐閣 新刊案内
(定価は税込み)
東京・神田・神保町2/TEL:03-3255-6611
(C)法文は03-3617-0711

社会学小辞典

版●近刊 四六判箱入
新 定価三九一四円
濱嶋朗・竹内郁朗・石川晃弘編(総項目五〇〇項目・九六二頁)
二〇年ぶりの全面改訂! 収録内容は旧版の五割アップ。

高学歴時代の女性

●女子大学からのメッセージ
利谷信義・湯沢雅彦・袖井孝子・篠塚英子編 お茶の水女子大学の教授スタッフが描く高学歴の女性たちの現状と未来
有斐閣選書 定価一七五二円

21世紀親子法へ

二宮周平・榊原富士子著
有斐閣選書 定価一八五四円

家族の法 利谷信義著 新しい家族法理解のため
の二冊。四六判A判付定価一九五七円

紀伊國屋書店熊本店より

店長 中村勝治

熊本市は約六十五万人の人口を擁し、皆様ご存知の通り加藤清正公が築城した熊本城のもとに、代々の細川藩主が治め発展してきた都市で、明治以降は九州の政治の中心地としての役割を強くもった地として、中央官庁の出先機関も多い街です。

この地に紀伊國屋書店熊本店がオープンしましたのは昭和五十年三月ですから、早いもので既に二十一年が経過したことになります。熊本市の中心街である下通りアーケードと銀座通りに面した一角に、約三八〇坪（和書売場二八〇坪）の売場面積で商いをさせて頂いており

ます。

店舗は二つのビルがL字型にジョイントした形で構成されており、下通りアーケードに面した方は、一階がドラッグストア（オーナー）で二・三階が紀伊國屋書店、また銀座通りに面した方は一・三階が紀伊國屋書店で四階以上はホテル（オーナー）という建物になっています。当然のことですが運営効率はワンフロアの店舗に及ばず、ご案内という点では、単なる多層階ビルよりもまだ難しい面があります。

人文書の売場は、銀座通りに面した方の二階に位置し

ており、二〇坪強の売場（といっても壁面が多いので棚数は相当数あります）で展開しています。この二階の売場は、社会科学・自然科学書および文学・芸術書の売場としており、私どもでは専門書の売場という認識で案内しております。

県内に同規模の総合書店が少ないため、勢い私どもへの期待は高くなりまして、品揃えの面ではいろいろとお叱りを頂戴するケースもございますが、私どもとしましても専門書（人文・社会・自然）は最も力を注いでいる分野でして、例えば人文書の売上シェアは全書籍の約七パーセント、専門書全体では二十八パーセントというシェアですから、文字通り中核商品としてとらえており、読者の皆様にきちんとお応えしなければならぬという使命感にも似た心構えで日々販売に腐心しているところです。

ところが私どもの和書売場面積程度で総合書店として運営していくことは、どうしても公約数的な品揃えにならざるを得ず、大型店舗が各地に展開されている現在では、特に専門書の読者の方々に中途半端な規模と思われるのではないかと内心忸怩たるものがあります。

人文書の中で売上比率の高いのは教育書・宗教書・歴史書の順ですが、宗教書に関しては一部の新興宗教書の売上に左右されることが多いので、一般的に店頭で反応が強いのは教育・歴史の分野になります。最近は福祉関係への関心の高さが伺われ、この方面の比率も高まってきています。また、熊本県は全国平均よりも高齢化が進んでいるといわれており、ご来店されるお客様にもご年配の方が多く見受けられますし、このことは歴史書のうち自分の体験してきた戦前戦後の現代史や戦記ものの需要が高いことを裏付けています。

しかし最近では、どの書店でも同様かと思いますが、例えば離婚や家族関係をテーマにしたものや、ドラッグや銃器に絡む犯罪をテーマにしたもの、或いは同性愛やシルバー世代の性をテーマにしたもの等、従来の分類にははまらないボーダーレスなジャンルの書籍群が増えており、その一方では日々膨大な数の新刊が出版されていて、限られたスペースでお客様のご要望にどう応えていくかこれが棚構成の面で悩ましいところであります。

従いまして私どもでは、できる限りフェアを数多く展開して、ある時は教育書のスペースを通常の倍ほどとつ

誠信書房

世界を変えた 女性たち

現代アメリカ・フェミニズム史
コーエン著／森泉弘次・宮内
華代子訳 B. フリーダンら
のフェミニズム革命の内幕を
赤裸々に描いた記録。5974円

アダルトチルドレン と共依存

緒方 明著 伝統的な心理学
や精神医学の視点から「アダ
ルトチルドレン」と「共依存」
を捉え直した好著。 1700円

日本人の感情世界

ミステリアスな文化の謎を解く
工藤 カノ口、マツモト著
本心と裏腹な言動をしやすい
日本人の二面性の謎を日米比
較の視点から解く。 2575円

カウンセリング の原理

國分康孝著 心理療法との違
いを明確にし、普遍的なカウ
ンセリングの「原理」を詳しく
解説した注目の書。 1854円

〒112 東京都文京区大塚3-20-6
☎03-3946-5666 ▶ 税込 ◀

正直なところ人文書のフェア展開は、集客面でも売上
面でも厳しいものがありますが、前述しましたように、
熊本読者の皆様への総合書店としての使命感にも似た
意欲をもってこれらを推進しており、これからも推進し
ていく方針であります。人文会各社様のご支援を期する
とともに、斬新な企画のご提示を期待致しております。
同時に、限られたスペースを有効に活用していくため

て陳列してみたり、時にはイベントルームで特別なテー
マを設けて品揃えしてみたり、つい最近では新刊台の近
くで『古代史フェア』を開催したりして、通常の棚では
スペースに限りがあるため展開できない商品群を、こう
した催事で補っていております。

に、売筋情報のみならず、本とその周辺の各種の情報の
ご提供もお願いするところでございます。

ジュンク堂書店鹿児島店

——新店店員の雑考

人文書担当 三原 健作

当店が鹿児島にオープンしたのは昨年十二月二日のことでした。私が書店員になって早いもので一年近くになろうとしています。昔から本は好きで、よく買いたたい本を捜して四、五件の書店を回ったものでした。しかし本に携わるといっても、購入するのと販売するのでは大違いで、今更ながら自分の知識の浅薄さを思い知らされている毎日です。

さてこの度人文会の皆様と縁あって、この「人文会ニュース」の貴重なスペースをいただくこととなりました。しかし初めにお断りしたように、書籍を販売する側

になってまだ一年近くしかたない若輩です。皆様に意見を述べられるような知識も経験もないのですが、せっかく貴重な紙面をいただいたのですから日頃人文書を販売して感じることを思い出すままに記してみたいと思います。

昨年の十二月、開店して三日と経たない頃印象的な出来事が二回ありました。ひとつは、私が哲学書の棚を整理していた時のことです。二〇代と思われる男性の方から、「ペンヤミンはどこにありますか？」と尋ねられました。「はぁっ、ペンヤミンですか？」と私はとまどってし

まいりました。恥ずかしい話ですが、それまでベンヤミンの著作はおろか、その名前すら聞いたことがなかったのです。しかし「知りません」とは言えませんが、「哲学書ですよね？」などと「勘」で言い、目の前の棚を捜し始めたのですが見つかりません。ストックの中にも見つからず、「申し訳ございませんが只今在庫を切らしております。」と答えてしまいました。

その後、文芸評論の棚入れをしていると、視界の中に「ベンヤ……」の文字が飛び込んできたのです。慌てて見直すと、確かにそこには『パサージュ論』をはじめとしてベンヤミンの著作が並んでいたのです。それを目にした途端、冷や汗は出るは顔は火照るは全く穴がどこかにないか捜したい気持ちになりました。急いで先ほどのお客さんを捜しましたが後の祭りです。自分の言動を思い出してはどこかに消えてしまいたい気持ちでいっぱいになったのです。

それから数日経った日の事です。いつもの様に棚の整理をしていると、四〇代と思われる男性が近づいてきて、「樺山さんの『世界史の知』はありますか。」と尋ねられました。ふと、前回の失敗が頭をよぎりました

が、今度は「世界史……」と名が付いているのだから棚を間違えることはないだろうと思い直し、捜してみました。するとちゃんと、居るべき場所に居るといったふうに、その本はあったのです。

「こちらでしょうか？」と差し出すと、お客様は一瞬驚いたような様子で、

「ほう、あるんですね。」と、嬉しそうな顔をされました。少し得意な気持ちにもなったのですが、考えてみれば分類とその場所を把握しておけば、常にお客様の欲しい本を提供できるわけです。そう思うと、慣れていないとはいえ、『ベンヤミン』のお客様には申し訳ないことをしてしまつたと、改めて思うのです。

新人と言ってもお客様から見ればプロの書店人です。新人という言い訳は成り立ちません。いかに多くの本に接して、その居るべき場所を覚えていくかが大事です。それまで本を捜すときは出版社別に捜すことが多かったのですが、人文書売る側になってからは、一冊一冊の本をどのジャンルにいれるのか、どういうグループに括って陳列するのか、そういったことが大切なのだと思うようになってきました。いみじくも、最近行われた研

修会の席でも、「専門書を売るうえで大切なことは分類です。」と教えていただきました。

ある本の中に、「棚は生き物である。こうと決まった形があるわけではなく、日々の補充、お客様の好みで毎日変わっていくものである。」という言葉を見たことがあります。大分うる覚えではありますが、確かこのような内容だったと記憶しています。「棚は生き物である。」なるほどと思いました。確かに、お客様の欲する本がある書店、行けば欲しい本に出会える書店が理想的な書店です。一〇〇％希望の本がいつでもおいてあるというのは不可能でしょう。しかし、少しでもそのような棚に近づけていくことは可能ですし、また近づけていくのが書店人の務めだと思うのです。

もっと考えを進めると、棚は生き物である以上、本物の生物と同じように進化していくべきものでしょう。世の中は刻々と変化しています。新しい価値観、世界観も生まれてきています。書物が人の思想を表現するものであれば、当然その居場所である棚構成も変化していくはずです。医療の現場でも、だいぶ前から西洋医学と東洋医学の融合が試みられています。最近のキーワードとし

ては、「癒し」と言う言葉が広く人々の間に広まっています。教育の現場では、いじめ問題の深刻化や、不登校児の問題から、全国の学校に一人は「学校カウンセラー」が配置されようとしています。そうすると、いまある「心理学」の棚と「教育」の棚はもっと近づいてこなければいけないかもしれません。

店がオープンしてもうすぐ一年が経とうとしています。まだまだ覚えなければならぬこと、経験しなければならぬことが山とあります。だからこそ、毎日の業務の中で、お客様の声を少しでも多く聴き取って、鹿児島で一番の棚と言われるものを作りたいのです。そのためにも今まで以上に皆様からは厳しい意見、ご指導をいただきたいと思います。

鹿児島大生協書籍部

熊川 隆幸

今回、人文書について普段の業務の中で感じていることを書いてくださいとの依頼をうけ、大変とまどってしまいました。と、いうのも、私は業務の中では理工書の担当でして、それこそ人文書に明るくはありません。しかし、店長と人文書を検品し品出ししながら感じていること、特に私たちは大学の中で働く大学生協書籍部でありますので、専門書と学生、教職員のみなさんとの間で感じていることを書いてみたいと思います。

「学生が専門書を読まなくなった」という声はずっと言われていることですが、確かにこのことは、私たちの

鹿児島大学でも言えます。自分から読まないまでもきっかけとして読むことになる大学の講義でテキストとして使われる人文書でさえ、最近では試験に持ち込み可でない限りは買わないという学生は増えていきます。大学生協で行っている学生生活実態調査という一年間に一回行う調査がありますが、それにおいても、我が大学の平均読書時間は減少はしても増えてはいません。

そんな状況の中で、最近、うちの大学の先生がある取り組みを始めています。法文学部のある先生なのですが、その先生は自分の講義の中で、あるいは学部の配布

物のコーナーで、あるいはうちの書籍部に、ビラを持ってきた「配ってください」とお願いにみえます。

その取り組みは何かと言いますと、「二冊の岩波文庫と一〇〇冊の本を読む運動」というものです。これは特に、岩波書店の支持をするというのではなく要は一〇〇冊の専門書・名著を読んでみよう、読んで感じたことをまとめる訓練をしてみようという趣旨です。先生はビラの中で書いています。「ご存じのように「大学に入れば就職はなんとかなる」とか「就職すればなんとかなる」という時代はおわってしまった。こんな「ぬるま湯」のような大学生活を送っているは「東京の学生」に負けてしまっているのではないかと不安な人も多いことだろう。」「バイトやサークルも大いにけっこう。どんどんやってください。でも、それらはみな「東京の学生」もやっていることだ。あなたはさらに二冊の岩波文庫と一〇〇冊の本、一本の論文に挑戦してみたらどうだろう」こんな文章の後、先生がすすめる人文書、社会科学関係の名著リストが続きます。この先生はこの取り組みだけにとどまらず、日常的にも「〇〇を読もう」といった読書会をよく開いて、学生はもとより大学外からの社会人の方も囲

んで読書会を開いていらっしやいます。

先生の取り組みをみて感心しているのは、先生は本を読む「きっかけ」づくりがうまいなということです。人文書、専門書というどうしても学生は構えてしまし、そういう本である事は確かです。でも先生のビラを読んでみると、その本を「読んでみようかな」と思わせてしまうのです。かくいう私も先生のリストは保管しています。人文会の方でも、意外と人文書の定番リスト、(学生時代に読んでおきたい本↓売れる本とは限らない)なんていうのはあまりないのではないのでしょうか。新潮社文庫一〇〇冊みたいに人文書一〇〇冊なんていうリストづくりを人文会でもやってみられたらいかがでしょうか。店内でも人文書のコーナーでは、学生さんの姿はよく見かけます。本も手にとっています。その学生さんにきっかけをどうつくってあげられるか。学生の中では、けっこう「何を読んでもいいのか」の情報が無いのではありません。余談ですが、私は文庫が好きで、最近「文庫で読む二〇世紀の世界文学全集一〇〇冊」というリストを活用して読破しようと楽しんでいます(このリストは文学、SF、ミステリーなどジャンルを問わず主

要六出版社の文庫担当者が共同作業で選んだものです。岩波書店発行の「よむ」一九九四年四月号に掲載されています。

リストづくりで商品を売る側から思いついたことですが、できましたら、テーマごとの人文会のリストがあったらと思います。「アジアを知る一〇〇冊」とか、「哲学の名著一〇〇冊」(別に一〇〇冊になる必要もないと思います)なんていうリストがあれば、こちらの品揃えも大変助かります。日販速報などにもテーマ別のリストが毎回載っています。あのようなリストを人文会でもいろいろとテーマでくくってみてだしてみられてはいかがでしょうか。

それから販売実績の件ですが、出版社の方から売り上げスリップの一覧表が送られてきます。常備入れ替えの時に大変参考になる資料で大変ありがたく思っています。また、自分の店の定番をみつける上でも参考になります。理工書のある専門取次から、今月の売り上げでよく売れた本の定番スリップを送ってきました。書店としては大変ありがたいものでした。スリップがあれば、ある程度の手間がはぶけて確実に補充ができます。虫のいい話で申し訳ありませんでしたが、売り上げの一覧表と同時にそんなスリップもあったら助かるなという気持ちがあるのも確かです。

最後に、今回の人文会の方々のお話をお聞きして、大

創元社

「知の再発見」双書

フリーメイソン

L・ヌフォンテーヌ著 吉村正和監修
近代ヨーロッパ精神に様々な影響を与えた秘密結社の真実の歴史を描き出す。 1400円

絵で読む世界文化史

既刊 60点

バビロニア

われらの文明の始まり

J・ボツテロ著 松本健監修
ハンムラビ法典やバベルの塔などよく知られるメソポタミア南部の文明興亡史。 1400円

■好評既刊

モーツァルト	1300円
メソポタミア文明	1400円
魔女狩り	1300円

〒541 大阪市中央区淡路町4・3・6
〒162 東京都新宿区山吹町334・11
☎06-231-9010 ☎03-3269-1051

学生協への大きな期待を身にしてみています。それは、やはり大学という場所への期待、その中で仕事をしている生協への期待と受け取りました。もっとその期待に答えて、出版社から大学の学生・教職員のみなさんへ、そして逆に学生・教職員の声を私たちを通じて出版社さんへという役割をがんばっていきたいと思いました。意外と、大学の学生・教職員のみなさんの声、実態を出版社さんへという活動が弱いように思います。先日、東京の理工書出版の方をお尋ねしたら、「現在の大学でどんな教科書、本をつくっていったらいいか迷っている。もっと生の情報を伝えて」とお願いされました。大学の情報を伝えながら出版社・取次と一緒に本をつくっていく、売っていくそんな活動ができればと思っています。

人文会研修旅行報告

九六年人文会研修旅行は、会員社三社と販売会社様三社にご同行いただき、計二六名で一〇月三日より二泊三日の行程で、一八年ぶりに南九州（熊本・鹿児島）にお伺いしました。

最初にご訪問した熊本大学生協様で、いきなり「人文書の売れ方が教科書やサブテキスト以外は動かなくなってきた」とのきびしいご意見を承りましたが、しかし来年度から教養課程が廃止され授業の専門色が強くなるとうかがい、それをどう人文書の売り上げにつなげるかを検討してみたいと思いました。

弘報委員会
浴野英生（草思社）

紀伊國屋書店熊本店様では、店舗見学の後昼食と研修会を行いました。昭和五〇年の開店以来、地域一番店として、また紀伊國屋書店というブランドとして、専門書の品揃えに対するプライドと責任感がひしひしと感じられる棚でした。「超大型店が続々と出店される昨今、三八〇坪（和書二八〇坪）ではなかなか思うように商品を揃えられない」というご発言もありましたが、それでいながら多様な読者のニーズに応えられる充実した専門書の棚の品揃えには頭の下がる思いでした。また、「人文書分野の用語解説や位置づけがわかる手引書、テーマに応

じた関連書リストやミニフェアの案内が欲しい」との意見がご担当者から出されました。これは書店様の現場担当の方とお話すると最近必ずといってよい程でのご要望です。人文会ではこれまで九三年に刊行しました『人文書のすすめ』の活用をおすすめしてきたのですが、改訂も含めもっと簡便なものも必要になってきたのかもしれません。また、熊本は全国レベルより高齢化が進んでいるので、福祉面、老人問題等の需要が高いとのご発言が、社会の動向に鋭敏に反応する書店様ならではと大変印象的でした。

まるぶん様では、面出しを多用され大変見やすい陳列と動線で、一般の読者が本を選びやすいよう工夫されていました。敢えてアイテムを増やすのではなく、探しやすさ買いやすさに重点をおかれておられるようでした。情報の提供など私たちにポイントとなる商品選択のお手伝いができれば楽しいな書店様だと思います。

さて、その日中にあわただしく熊本を発った私たちは、鹿児島でその夜、特約店・準特約店様をご招待しやさやかな懇親会の席を設けることにいたしました。

出席いただいたのは、金海堂・春苑堂書店・紀伊國屋

書店鹿児島営業所・ジュンク堂書店の各書店様・鹿児島大学生協、それに南日本新聞、鹿児島テレビの方も見えました。日頃は激しく競い合っている書店様同志も、なごやかに歓談いただき、私達も貴重なお話をうかがうことができました。また春苑堂書店本店の湯田店長様より、「毎年一〇月頃催される『鹿児島書店青年連合会』が来年で一〇周年を迎えるので是非版元も多数参加してもらいたい」とのご案内がありました。現場のご担当者中心の会で一〇〇名位の会になるそうです。中締めの後、各々書店様を囲み天文館の夜へ繰り出していったことは言うまでもありません。

二日目も朝早く、開店前にもかかわらず鹿児島大学生協様をご訪問させていただきました。四〇坪という売場面積でありながら、非常に充実した人文書の棚を作っていただき、さすがに九州で一番古い大学生協様だと会員一同感心させられました。「大学生協でいばんに参加したことで、個々常備依頼をしなくてすむようになったので楽になったが、対版元とのつながりが希薄になったような気がする」という意見には、売り上げと効率のていばんシステムの別の一面を知らされました。また、「ジュ

ンク堂書店といい意味で競争して専門書売りたいたい」という意欲的な発言もあり、更に予定になかった新しい大
学図書館も見学させていただくことができ、有意義な訪
問でした。

春苑堂書店様では、地元マスコミとの深いつながりや
郷土の本の充実した品揃えに感銘を受けました。金海堂
天文館店様でも明るい店内に会員各社の品揃えをきちん
とさせていただき、ベテラン店員の方のていねいなご対応
が大変有難く思いました。両書店様とも地元の老舗書店
として鹿児島の文化を支えてきたという誇りが感じられ
る風格のある書店様でしたが、一つだけお願いごとを申
し上げたいと思いました。それは本の分野別展示です。

管理面等色々問題はあるかと思いますが、目的買いでな
い大多数のお客様の利便性を第一に考えて是非一度ご検
討いただければと思います。版元別のなかでは動かな
かった本が適正なジャンル別の棚に移動することによっ
て高回転商品に生まれ変わった例は枚挙にいとまがあり
ません。

ジュンク堂書店鹿児島店様では、先ず専門書の三・六
メートル一段棚に驚かされました。その棚を含む専門
書の売り上げが現在四〇％を超すというのも更なる驚愕
でした。売れないと言われているながら、地方の読者の専
門書への欲求が、実は強くあることに会員社一同意を強
くする思いでした。

せめてあのとき 一言でも

いじめ自殺した子どもの親は訴える
鎌田慧

この親たちの無念と怒り！父母
が語る衝撃の事実。涙なしに
は読めない本。定価 1545 円

謝らないアメリカ人 すぐ謝る日本人

生活からビジネスまで、日米を比較する
高木哲也

米国在住 24 年、日米のビジネ
スに精通した著者が、両国の
本質を比較する。定価 1648 円

ナチ強制収容所

その誕生から解放まで

長谷川公昭

主要な収容所をすべて取りあ
げ、収容所体制の全容に迫ろ
うとした初の試み。定価 1957 円

ヒトラー=ムツソリーニ 秘密往復書簡

A・F=ボンセ解読/大久保昭男訳
友情と欺瞞——二人の独裁
者の葛藤と使命感を浮き彫りに
する貴重な資料。定価 1648 円

ヨーロッパ人の 奇妙なしぐさ

ピーター・コレット/高橋健次訳
イタリア人の手招きはイギリス
人のあっちへ行け!? ユーモラ
スなガイドブック。定価 2266 円

最期に死のやすらぎを

死を選んだ五人とその家族
L・シェイヴルス/三浦彌子訳
末期の病に苦しむ五人とそれ
を見守る家族の激しい葛藤を
描いた痛切な書。定価 2266 円

草思社

東京都渋谷区神宮前4-26-26
☎03(3470)6565 定価は税込

最後にご訪問した鹿児島県立図書館様では、予定時間を大幅に遅れてしまったにもかかわらず、日頃入れない閉架書庫まで見学させていただきました。

予定のご訪問を無事すべて終えた上で、宿泊地指宿へ向かう途中に春苑堂西駅店様へも寄らせていただきました。例年より一日短い今回の研修旅行でしたが、日頃なかなか伺えないところでもあり、貴重な充実した研修をさせていただいたと思います。

最後になりましたが、ご多忙なか人文会のために貴重な時間を割いて下さいました書店、図書館の皆様、またご同行いただきましたトーハン土屋部長様、日販浜課長様、鈴木書店甲斐課長様に厚く御礼を申し上げます。有難うございました。

お詫びと訂正

「人文会ニュース 76号」の本文26ページの吉川弘文館の見出しを古川弘文館と誤りました。
お詫びとともに訂正させていただきます。

弘報委員会

「論点公開」に対する意見

——出版物再販制度の果たす役割——

一九九六年九月三〇日

(社)日本書籍出版協会
(社)日本雑誌協会

はじめに	17
I 商品特性	18
II 委託販売制	20
III 書店はどう変化するか	22
IV 価格	26
V 歴史	29
VI 結論	30

□付 表

(表1) 書籍・雑誌の価格指数と消費者物価指数	31
(表2) IPA主要各国における新刊書籍の平均価格	31
(表3) アクセス度によるグループ	32
(表4) 一九九五年出版関係バーゲンブック・フェア	33

はじめに

一昨年来続けられてきた出版物再販制度の存廃をめぐる論議は、今夏の規制緩和小委員会の「論点公開」により、問題点がさらに明確に絞られてきたと思われる。しかしながら残念なことは、昨年末の貴小委員会から行政改革委員会への答申に際し、再販制度の「原則廃止の方向」を撤回し、「引き続き検討課題とする」こととなった重要な経緯が、今回の「論点公開」の論述からは汲み取れないことである。この点は今回の論議を進める上での前提なので、まことに遺憾であると言わざるを得ない。

われわれは、昨年の論議を踏まえつつ、出版流通の現状に照らして論点をより整理した上で、今回の「論点公開」に対する意見を以下に述べる。

今回の再販制度論議は、端的に言えば独占禁止法の適用除外をはずすべきか否かである。すなわち、現行の出版物再販制度を存続させた場合と廃止した場合とでは、いずれが国民にとってメリットがあるかが、国家的見地から検証されなければならないと考える。

出版物は現在の法律では法定再販であり、その制度を廃止しようとする主張があるならば、現在の再販制度がもたらしている不利益あるいは不都合を具体的に示し、再販制度を廃止することによってそれらの問題が確実に解決することを示すべきである。同時に廃止により、現行再販制度が読者に対してもたらしている利益よりも大きなメリットがあることを論証し、さらにその論証が国民の広い層の理解を得られることが必要である。言うまでもないが、その論証責任は再販制度を廃止しようとする側にあり、再販制度を維持しようとする側に求めるのは理屈に合わないと言わざるを得ない。

出版業界の市場規模は二兆数千億円余りで、他業界に比べると小さいものではない。ここに六、〇〇〇社余りの出版社と二万数千軒の書店、そして両者を結ぶ問屋機能として約八〇社の取次会社がひしめき合っている。その中で、大手出版社といえども業界シェアが一〇％を超えるところはない。

再販制度を規定している独占禁止法は、もともとアメリカの石油業界における極端な独占、市民生活への圧迫に対抗して制定されたものであった。日本では、この四

○年以上出版物は、独占禁止法で法定再販物として特別の扱いを受けてきた。このことは、市場原理に完全に委ねることのできない商品特性が、考慮されたのだと考えられる。

出版物の価格は、再販制度があるために、読者が購入にあたって価格交渉する余地はない。しかしながら、再販制度で価格が安定しているがゆえに、出版社は採算点ギリギリの定価を設定している。また、出版物は基本的に個人の創意を盛り込んだ商品であり、自らの創意工夫、学術的主張等々を一人でも多くの人に知ってもらいたい、世に問いたい、という著作者の意思にそって低い価格が設定されている。このことは後述するように、わが国の出版物の価格上昇率が一般物価の上昇率より低く、また先進諸国のそれに比べても低くなっている事実から明らかである。

一方、出版流通の現状については、読者からさまざまな不満が表明されていることは事実である。この点については、今後とも業界あげて改善に全力を尽くしたいと考えているが、これらは必ずしも再販制度に起因するものではなく、むしろ現行再販制度の下の方が、読者に

とってより良い改革をもたらすものと確信する。

ここでは、独占禁止法の適用除外を受けている出版物の商品特性と、それに付帯する市場の環境をいま一度検証して見ることで、再販制度存続の可否を考えていただきたい。

I 商品特性

論点公開では、規制緩和の意見（以下ゴシックで示す）は、「ほとんどの商品について違法な再販売価格維持制度を、書籍・雑誌についてのみ例外扱いとすべき程の特別な商品特性はない」としているが、出版物には総合的にみると、他の商品と比べると著しく異なる商品特性があり、その特性が最大限生かされるためには再販制度が不可欠である。

1. 出版物には次の商品特性がある。これらの商品特性を総合的に考察すると、出版物の流通を他の商品と同じ経済基盤で考えることは著しく妥当性を欠くことになる。

(1) 国民の知識と文化を高める商品であること

憲法第二一条は「集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する」と規定している。

これは国民に思想、信条、価値観等にかかわらず、何人に対しても出版の自由を保障していると同時に、国民に対してその発行された出版物に自由に接する権利も保障したものであることは明らかである。この自由と権利が保障されているのは、出版物を通して国民は知識と文化を手に入れることができ、それによって民主社会は発展し、国民生活も向上し、日本の学術文化が進歩することになるからである。

(2) 出版物は内容を吸収することが目的であること

出版物は、思想または感情を創作的に表現した著作物を、書籍・雑誌の形で固有の物体として発行しているが、他の商品と異なり、その物体を形態的に使うことが目的ではない。出版物に含まれている情報を読者が知識として吸収することがその目的である。出版物はその特性から、時代を越えて活用される商品である。

(3) 極端に代替性が低いこと

出版物が著作者の創造力や思考力ならびに表現力、あるいは学術研究に基づいて執筆されたものである以上、その内容は多種多様であり、同一分類あるいは同一目的を持った出版物であっても内容は同一ではない。いわゆる類書のようなものであっても著作者の思考過程や判断基準が異なっている。それゆえにこそ、一冊一冊の出版物は個別の著作権により守られている。読者は、多くの場合複数の類書を読み、比較検討することによって特定分野の研究あるいは情報入手が可能になってくる。他の商品の場合は形態的に同一目的であれば、複数種類購入することは通常はあり得ない。

2. これらの商品特性があるため、社会的あるいは経済的制度として、各国は国情に応じてさまざまな措置をとっている。個々の商品に関する税制に関しても、それぞれの国情によって必要な措置が講じられている。

それらの中で、わが国の消費税に相当するVATについて、出版物は多くの国で軽減措置あるいはゼロ税率が適用されている。また、関税についても、ほとんどの国

で非課税措置がとられている（教育的、科学のおよび文
化的資材の輸入に関する協定Ⅱフローレンス協定）。

これらは、出版物の商品特性によるものであり、他の
商品と異なる特性があることの例証と言えよう。

3. 従って、出版物のもつ以上の文化的商品特性を最
大限生かすためには、出版社は、仮にその経済効率が低
くても、できる限り多くの出版物を発行し、その発行さ
れた出版物はできるだけ多く、できるだけ幅広く、でき
るだけ多くの書店等で国民に接することが必要である。

その幅広い品揃えの中からどれを選択するかは読者が判
断すべきことであり、出版社や書店はその選択権をでき
る限り読者に保障しなければならない。国民が多くの出
版物を手に取り、読み、できるだけ多くの情報を吸収す
ることによって国民の知識と文化が高まり、ひいては日
本の学術性と文化性が高まることになる。書籍の中には
長期間にわたり販売されるものもあり、価格の安定が必
要不可欠である。従って、国民ができるだけ多くの出版
物にできるだけ容易に、かつ長期間にわたり接するため
には、再販制度は不可欠である。

Ⅱ 委託販売制

1. 出版物の再販制度は出版社が小売書店での販売価
格を拘束できる制度であり、委託販売制（返品条件付き
売買）とは必ずしも不可欠の関係にあるものではない。
しかしながら、書店での陳列展示に際してこの二つが大
きな柱となっていることは事実である。すなわち、委託
販売制は書店が多種類の商品仕入れ・陳列ができるよう
に支え、一方、再販制度は価格の安定によって長期展示
ができるように支えている。もし再販制度がなくなる
と、たとえ委託販売制があっても品揃えは売れ筋商品中
心となり、多くの需要が見込めない本ほど展示機会が失
われ、また展示個所も少なくなるであろう。

このようにして、読者との出会いの機会が失われてい
くことは、読者の利益を損なうだけでなく、もともと少
量生産を余儀なくされている本の出版そのものを危うく
することが懸念される。

2. 「委託販売制への過度の依存は、……小売店の品揃

えを安易にする等、経営努力とリスク負担能力の不足につながる」との指摘があるが、委託販売制によって書店は幅広い品揃えができていたのであり、ひいてはその簡便さゆえに全国二万数千軒の書店の経営が成り立ち、読者に最寄り買いの利便を可能にしているのである。こうした委託販売制がもたらしている読者メリットを無視して、書店の経営姿勢や商品管理能力の問題に直接結びつけて論じるのは妥当でない。

3. 「売れ筋の本以外、非常に短期で返本されており、委託販売制による展示効果は小さい」との指摘も妥当とはいえない。書店では、委託品の中から自店の客層に合うであろう（つまり展示効果のありそうな）本を選び出し、それ以外の本を返品しているのが実情である。当然ながら陳列する本も返品する本も店によってさまざまであり、一度返品された本も次の委託先で展示されている。結果的には読者の商品選択や購入機会の増大につながっており、返品自由な委託販売を書店のみのメリットと見るのは誤りである。

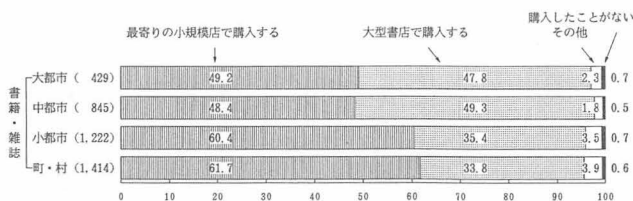
4. 「再販制度は、書籍・雑誌の新しい流通形態の出現・発展を妨げ、消費者の利益を損なっている」との指摘があるが、出版業界はさまざまな改善・開発努力を行っている。本の検索システム（書店に陳列されていない本でも内容を検索し、在庫の有無を確認できる電子システム）や注文システム（入手日数と料金の組み合わせによる複数の入手ルートへの選択）の開発はその一例である。そのほかにも、大都市中心で、数は少ないとはいえ、医書・理工学書・コンピュータ書・児童書・文庫・コミックなどの専門店の出現や、専門書コーナーの充実をはかった書店の拡大、書店のない地域（町村の四九・三％・全国書店名簿、全国市町村要覧の一九九五年度版より）への書店の開設も行われている。また大規模書店の出店競争や書店以外の販売チャネルの開拓でも激しくしのぎを削っており、CVSルート、宅配便ルート、読者直送ルート、インターネット・パソコン通信での販売等、新しい流通ルートが年々拡大しつつある。そしてバーゲン本を取り扱う書店の数も年々増えるなど、新しい流通形態への取組は再販制度の下でも盛んに行われている。

5. 「取次ぎによる委託品の配本（パターン配本）」では、書籍・雑誌の種類や部数について小売店の多くが不満をもっている」との指摘がある。しかし、出版物は多品種少量生産であり、もともとすべての書店に行き渡るだけの部数はなく、また書店側にしても大書店といえども限られたスペースの中でやりくりしている現状を勘案すれば、全国の書店のすみずみまで潤沢に展示できるわけがない。こうした事情はたとえ再販制度を廃止したとしても変わらない。

Ⅲ 書店はどう変化するか

1. 書店は画一的ではない

「売れ筋の本しか置いていない画一的な書店ばかりがいくら沢山あっても『文化立国を標榜する日本』に貢献することにはならない」との指摘があるが、すでに述べたように、再販制度の下においても、専門書コーナーを充実させた大型書店の全国各地への出店、大都市を中心にした地域への専門店の出現という状況を読者は上手に活用している。読者は最寄りの中小書店の果たしている



「再販制度対象商品に関する物価モニターに対する意識調査結果」経済企画庁物価局 平成8年6月18日

役割については、それなりの理解を示しており、大書店や専門書店と最寄り書店を目的に応じて使い分けている実態が、次の調査結果からも明らかとなっている。

2. 中小書店の役割

「中小書店は現在でも展示効果を期待できる品ぞろえをしていないところが多く」という指摘があるが、すでに述べたように中小書店では、絶対的なスペースの限界ということからやむを得ない側面がある。読者もこのことを理解していて、大書店と中小書店を使い分けているのが実情である。中小の最寄り書店は、基本的には地元の多くの読者の求める書籍・雑誌を中心に展示・販売をしてお

り、次のような点で地域住民に果たしている役割は大きい。

まず第一に店頭には書籍・雑誌等の注文を受け付けていること。第二に出版物に関する情報を提供していること。第三には、遠方の大書店へ出かけられない子供や老人等社会的弱者にとっては、出版物と出会うことのできる重要なアクセスポイントであること。第四には、書籍や雑誌を地域住民等に配達していること。第五には地域住民の文化センターでもある公共図書館、あるいは児童にとって勉強の拠点である学校図書館へ新刊や注文品を揃えて納入していること。このようなサービスを提供している中小書店においては、全国にハイピッチで増加している大書店に対抗していくためにも、地域住民のニーズを満たした展開がさらに迫られており、市場の要求をこれまで以上に充足した書店が増大すると思われる。

3. 中小書店はなくなっても良いのか

「再販制度の廃止が、直ちに小規模書店の減少につながるものではない」との指摘があるが、再販制度が廃止

されれば価格競争が始まり、資本力が書店経営を左右し、その結果、体力のない小規模書店は現在と比べて廃業・倒産に追い込まれる可能性が高いことは明白である。わが国では書店は二万数千軒あり、七割の町村に公共図書館が設置されていない状況をカバーしてきたが、このような重要な機能も大幅に減少してしまう。

中小書店が倒産した場合、「他の業態同様、中小企業対策として対応すべき」との指摘があるが、深刻な財政赤字が進行しているわが国の現状を考えると、国が新たなコストを一切支出しないで、中小書店が存続できる可能性を有した再販制度を存続させる方が賢明な選択なのではなからうか。

再販制度をはずせば、「小規模店が専門化」という指摘があるが、果して本当にそういえるのか。非再販のアメリカでも決して専門書店は多くはなく、価格競争が激化した現在、むしろ不利な立場に立たされている。現在わが国において、専門店と言える書店は、医書・理工学書・コンピュータ書・児童書・文庫・コミックなどの分野に少数存在するにすぎないし、その大部分は読者が圧倒的に多い大都市にしかないのである。

一般的に言って読者は、書店に様々な分野の出版物があることを求めるのである。一人の読者が雑誌を買い、小説を買い、絵本を買いというような購入行動を取るのがごく普通のありようではないだろうか。中小書店は経験的にこのことを理解している。こうしたことをふまえて、現在、中小書店は地域の読者のニーズに合わせた改善、あるいは個性化をしていく方向に向かいつつある。

4. 日米大書店比較

再販制度がなくなれば、小売書店で価格は自由に設定できるので、書店間の価格競争は必ず発生する。再販制度を採用していない諸外国を見ても、このことは明らかである。価格競争に勝つためには経営効率を上げ、限られた品目を多量販売をすることによって、可能な限り多くのマージンを確保することが必要となる。この少品種多量販売を優先する場合、現在の幅広い品揃えは後退せざるを得ない。

興味深い比較データを以下に掲げる。再販制度を採用していないアメリカの場合、大手書店チェーン（ボーズやバーンズ&ノーブル等）では、近年超大型店を

加速度的に増やしている。こうした超大型店（三〇〇、一、三〇〇坪）に展示されている書籍の在庫点数は六万から一七万五、〇〇〇点（一九九五年バーンズ&ノーブルレポートより）ということである。これに対し、わが国の一、〇〇〇坪前後の超大型店の在庫点数は三〇万点を超えている（一九九五年書協調査）。

この比較から明らかになったことは、再販制度がなくなると価格競争に打ち勝つためにどうしても少品種多量販売にならざるを得ず、大書店の存在理由として求められている品揃えの充実という点で、日米の大書店にこれだけの違いが生じているという事実である。再販制度が廃止されれば、大書店ですら売れ筋中心の品揃えに偏るということがアメリカの例からも類推できるのである。

パブリッシング・ウィークリー一九九六年四月一日号によると、米トップ四大書店チェーンの一九九六年一月年度末の総売上げは、対前年比一七・四％増の四二億四、〇〇〇万ドルと昨年の一六・三％増を上回り、全書店の九五年売上げのほぼ四四％（九四年は三八％）を占めるに至っている。これら四大チェーン店の大幅な売上げの伸びは、全書店のわずかな売上伸び率とは著しく対

照的となった。九五年の全書店の売上は、対前年比一・六％増の九七億ドルである。

再販制度が廃止されると、こうしたアメリカの書店業界に近似した寡占状況が、わが国においても発生する可能性が高い。その結果中小書店が多大な影響を受けることは、明らかである。ちなみに、わが国最大の書店チェーンのひとつである紀伊國屋書店のシェアは、まだわずかに約四％にすぎない。

5. 専門書と書店

「価格拘束をしても売れない本は売れない」というのはその通りで、多くの出版社はこのことを痛切に理解している。と同時にバーゲン・ブックフェアを通じて「価格を下げて、売れない本は売れない」ということも痛感した。

書籍・雑誌は消費者物価の上昇よりも値上がり方が少ないこと（表1）、あるいは諸外国と比べても決して高くはないこと（表2）からも明らかのように、小売店間の価格競争がなくても出版社（メーカー）間での価格競争が行われているために、読者にとって良い結果が生じてい

る。

再販制度が廃止されて、書店間の価格競争が激化した場合、小部数生産および組版・図表作成等の複雑さによりコストが高く、マージン率を多く出せない学術専門書等は、現在よりもさらに展示する書店が減少することが予測される。仮に潜在的需要が同一であったとしても、扱う書店が減少すれば、現在よりも初版部数が減少し、採算性が悪化する中、企画を検討している段階で没になるものが増加する可能性が高くなる。

なお、現在も専門書等がマージン率を高く出せないのは、前述したように価格を読者が購入可能なゾーンを設定することを前提にしていることと、さらに小部数生産等による高コストのためである。書店の扱うインセンティブを高める努力は、①扱い書店に多くの読者が購入に行くようにするための各種の案内の整備（図書目録やPR誌に書店紹介をする等）、②常備寄託等展示のための有利な条件の提示、③売れ残った場合のリスク負担、④販売増大のための研究・諸施策の実施等がある。なお、マージンの率が低めでも、絶対金額の高さは、書店サイドにとっては魅力である。従って「専門書等のマー

ジンが妥当な水準以下に低く設定されている」という指摘は、的はずれている。

再販制度を廃止することは、こうしたきめ細かな努力によって、かろうじて専門書を扱う書店を維持できている現状が、マージン幅を大きく売れ足の早いものを優先的に品揃えせざるを得なくなるという書店の経営の変化により、専門書を扱う書店の減少という読者にとって悪い方向へ行く可能性が高いと言わざるを得ない。

IV 価格

1. 「現在、出版社の間でも、作者の間でも競争はあり、読者も安いものだけを買っているのではなく、小説家や本の内容も合わせて選択しており、出版物にも競争メカニズムが働いている」との指摘はその通りであり、この文節は複数の商品の競争について述べられている。ところが、次の段階では、「小売り段階の書店の価格競争だけを制限する理由はない」として、単一商品の価格競争に問題がすりかえられている。

前段の論旨を受けて言えば、小売書店もまた、その地

域の読者に応えるため、限られたスペースにいかなる出版物をいかに陳列するかという努力をしているのである。ここにも競争メカニズムは働いているのである。

2. 「物の値段に流通コストが考慮されるのは、当然」という指摘があるが、この考え方に異を唱えるつもりはない。「再販が認められない他のほとんどの商品では、再販はコストと値段を上昇させるから望ましくないと考えられている」という指摘については、「書店はどう変化するか」で述べたように、出版物は再販制度下でも、消費者物価指数の上昇率を下回る良好な数値を示している。

さらに別の観点を付け加えると、神奈川大学の箕輪成男教授が示した書籍へのアクセス率という考え方から各国の比較を見ることによって理解が深められるはずである。アクセス率とは国民一人当たり平均所得に対して、書籍の平均価格がどのような比率を占めているかを言う。

$$\text{アクセス率} = \frac{\text{書籍一冊の平均価格}}{\text{一人当たり国民所得}}$$

一九八〇年前後のデータを使った調査は別表（表3）の通りであるが、わが国の書籍アクセス率は当時ベストであったし、この傾向に大きな変化はない。

3. 「他の商品や非再販本のケースでは、地方の消費者についてメーカー希望小売価格を上回る価格が設定されることはない。共通費の大きい商品の場合、価格差別は高い価格を支払う消費者の状況を統一価格の場合と比べて悪くするとは限らない」という指摘がある。販売価格が希望小売価格を上回ることとはまずないであろう。しかし、次の述べるケースから出版物の再販制度をはずした場合、読者が受けるメリット・デメリットを類推できる。

最近、自由価格本として出版された、『学校・宗教・家族の病理』（吉本隆明著、希望小売価格一、四〇〇円）のケースを分析すると、カバープライス通り販売した書店がある一方、一番値引きをした書店は九八〇円で販売した。仕入部数による正味の格差があるため、上下差は実に三〇％生じたが、この差は決して小さくない。三〇％引きで販売したのは東京の中堅書店チェーンであり、他

にも二〇％程度割引をして販売した書店は、大都市の大手書店チェーンが中心だった。値引きのメリットを享受できるのは、大都市中心の読者でしかないというのは、文化や教育を公平に享受できる国民の権利と照らし合わせて、問題があるとしか言いようがない。これにさらに輸送コストの差も上乘せになるのが、再販制度がはずされた場合の、出版物の価格形成のされ方であろう。

「低コストを享受しうる地域の消費者に対して、他の地域への供給コストを転嫁することを、制度をもって消費者に強制すべきことかどうかは疑問」という指摘に対して、出版物の商品特性から言っても全国同一価格が可能な再販制度が読者にとってメリットがあると判断する。

4. 「売れ残り品の値引き販売ができないため、返本・再出荷のプロセスを経て売れ残ったものが廃棄される率が、相当水準に上がっている。二次市場の存在はこの事実を物語っている」という指摘があるが、日本書籍出版協会の最近のアンケート調査では出版物の廃棄率は四・四％と昨年の公正取引委員会の「流通実態調査」よりも

ずっと低い数字であった。「二次市場」は出版物を廃棄せず、提供するために成立しているものであり、現行再販制度の弾力的運用の結果である。年々この市場は拡大しているのが事実である（表4参照）。

「仮に廃棄されなくとも、出版社の倉庫に眠っているならば資源の浪費である点で同じである」という指摘は、読者のニーズに長期間にわたって対応している出版社の経営努力に対する無理解と言わざるを得ない。

5. 「フランス財政経済省の統計データを用いた経済的分析に基づく評価によれば、一九七九年の推奨価格制度の廃止によって、書籍の価格が上昇した結果はなく、むしろ一九八一年の書籍定価法制定以降に価格の上昇が大きい」という指摘があるが、フランス出版協会（SNE）の資料によれば一九七八年から一九八四年までの、書籍の価格、消費者物価について、それぞれの年間上昇率が次の通り明らかにされている。

一九七九年七月一〇日に自由価格移行へのモノリー（経済相）条例が施行されたわけであるが、上記の表を見る限り、書籍の平均価格は、自由価格制に移行して以降

書籍の平均価格上昇率の消費者物価上昇率との比較

	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984
書籍の価格	7.8 %	8.9 %	11.9 %	15.4 %	16.3 %	10.9 %	7.6 %
消費者物価	8.9 %	10.7 %	13.3 %	13.2 %	11.6 %	9.6 %	7.6 %

—自由価格制—

の八〇、八一年においてはかなり急上昇している。また八二年の一六・三％は書籍定価法（ラング法）が八二年一月から実施されても、実際には自由価格で販売されていた商品がそのまま市場に出回っていた結果の平均価格上昇率とみるべきである。従って「一九八一年の書籍定価法以降に価格上昇率が大きい」との指摘は、書籍定価法の効力が発生するのは八三年からであり、七九年の場合と同様その間のタイム・ラグを無視したもののだといえる。

当時の英・出版業界誌「ブックセラー」八一年八月一五日号は、ル・モンド紙の記事を次のように紹介している。

「文化庁長官、ロドルフ・ペヤは『モノリー条例は書店の役割を弱体化させてしまい、代わって値引き店

の売り上げを伸ばす結果をもたらした。書店経営の上で不可欠ともいふべきベストセラーは、書店ではなく値引き店で大量販売されるようになってしまい、書店では市場が限られた専門的な内容の書籍しか売れなくなりつつあり、しかもその在庫期間はわずか六カ月どまり程度にまで短縮されただけでなく、出版社側がこの種の売れ足の鈍い書籍の出版を逡巡する傾向が著しくなりつつある」と述べている。」

6. 「イギリスでは、紙の価格の値上がりもあって、書籍だけでなく、新聞も値上がりしており、正価本協定崩壊が小売価格上昇傾向等の原因とはいえない」との指摘があるが、NBA（正価本協定）崩壊後の最近のイギリス出版界の状況について、英・出版業界誌「ブックセラー」一九九六年七月二六日号は、昨年のNBA崩壊以降の本の価格変動について次のように報じている。

「このほどウィットカー社（ブックセラー誌発行社）がまとめた出版統計によると、NBA崩壊以降、本の価格は、物価上昇率（九六年一月―六月期二・八％…HMSO調べ）の二倍を超えたことが明らかとなった。

今年一月から六月までに発行された書籍の平均価格は二四・七一ポンドで九五年同期の六・七％の上昇となった。とりわけ学術・専門書、科学・技術書、教科書の値上がりが大きく、それぞれ九・九％、七％、六・七％と、かなりの上昇となった。ノンフィクションも全点数平均価格では五・八％の上昇だが、ハードカバーだけでみると、実に九・九％と高い上昇率となっている。」

早急な結論は出せないが、これら平均価格上昇率が過去二年連続の下降傾向を示していたのに対し、逆の傾向を示したことは注目すべき点だ。

V 歴史

「再販制度導入の趣旨は明確でない」との指摘があるが、「歴史的経緯だけをもって、規制維持の根拠」としたのではなく、「出版物の文化的意義を評価」して西ドイツの制度を参考に再販制度が決められたのである。

『出版再販』（伊従寛著）によると、「西ドイツ競争制限禁止法案では、商標品と出版物の再販制の適用除外をはっきり区別しており、商標品の再販制は連邦カルテル

庁へ届出をおこなって、はじめて有効になるのに、出版物の再販制は届出を必要とせず有効であることが規定されているのです。また、同法案についての政府の提案理由説明では、「商標品については再販制の適用除外がブランド・イメージの保護のため必要であるとなりました。これにたいして、出版物については、再販制が文化国家の文化政策として数十年來許容され、出版物取引をするための販売組織と代金決済組織をふくむ全組織、すなわち効率よく形成された販売業者の地位の維持に必要不可欠であり、著作者、出版業者および販売業者の機能を何ら阻害しない」という理由であった。

VI 結論

「小売店及び消費者は、価格を自由に決める権利を取り上げられる形で、競争を制限されている」という指摘があるが、再販制度は定価販売によって幅広い品揃えを含む様々なメリットを最大限もたらしている。しかも出版物の価格は、①出版物の平均価格の上昇率が消費者物価の上昇率より低いこと、②先進主要国と比較しても出

版物の価格は高いこと、③書籍へのアクセス率が世界の中でもトップレベルであることが、明らかとなった。このことは再販制度がもたらした結果である。もし再販制度を廃止して小売書店の価格競争が始まれば、一部の書店においては、価格が下がるとしても、その他の多くの書店では品揃えの減少や廃業などを招き、国民全体ではもっと大きなものを失う結果となることは明らかである。

現行再販制度を存続させることによって、数多くの中小書店での幅広い品揃えが可能となることも、すでに述べた通りである。しかし、一方では流通改善については、まだ十分とは言えないことを我々は認識しており、我々に与えられた課題に今後とも鋭意、取り組んでいく所存である。

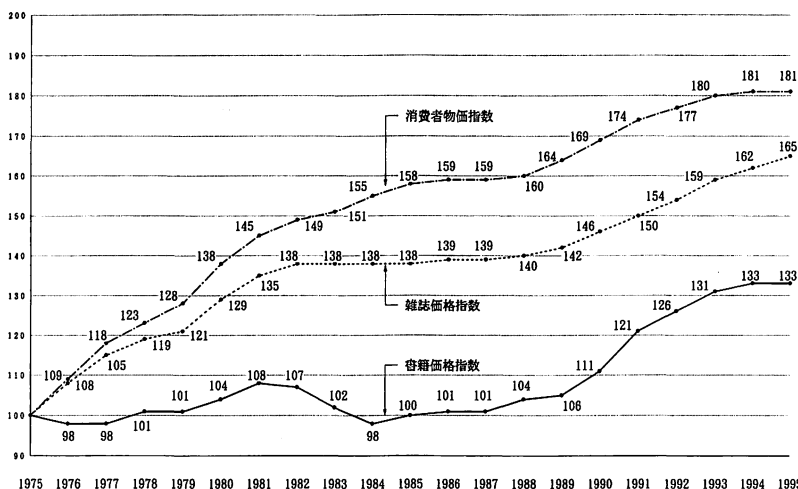
様々な分野における規制緩和の必要性は、我々も十分理解しているが、出版物の再販制度については、ヨーロッパの主要国をはじめ多くの国々においても存在しているという事実を目を向け、日本国民にとって必要な制度であることを理解していただきたい。

以上

(表 1)

書籍・雑誌の物価指数と消費者物価指数

(1975年=100)



*書籍、雑誌の価格は、部数を加味した加重平均（出回り）により算出した本体価格。出版科学研究所「1996年出版指標年表」による。

(表 2)

IPA 主要各国における新刊書籍の平均価格

	定価 or カバー Price		新刊書籍の平均価格			
			ハードカバー		ペーパーバック	
			1993	1994	1993	1994
日 本	定 価	(総平均) (単行本)	1,075 円 1,564 円	1,082 円 1,612 円	文庫 503 円 新書 739 円	文庫 518 円 新書 738 円
フランス 19.7 円/1 F	定 価		90 F (1,773 円)	92 F (1,812 円)	29 F (571 円)	30 F (591 円)
ドイツ 67.4 円/1 DM	定 価		38.7 DM (2,608 円)	—	—	—
イギリス 167.1 円/1 £	定 価	フィクション	8.70 £ (1,454 円)	8.73 £ (1,459 円)	5.63 £ (941 円)	5.64 £ (942 円)
		ノン・フィクション	19.06 £ (3,185 円)	19.27 £ (3,220 円)	12.25 £ (2,047 円)	12.78 £ (2,136 円)
アメリカ 111.2 円/1 \$	カバー		34.98 \$ (3,890 円)	—	大衆向 5.82 \$ (647 円)	—
					トレード 20.56 \$ (2,286 円)	—

○上記の表は'95年8月にIPA 主要各国出版協会に問い合わせをした結果の一部をまとめたもの。

(外国為替は'93年1月～12月までの毎月の平均レートを加算し、単純平均したもの—第一勧銀調べ)

注) ①日本の価格は'95年出版指標「年報」(出版科学研究所)から引用。②アメリカはPW誌'95年3月20日号から引用。③ドイツは出版年鑑'95年版「世界の出版統計」から引用。

(表3)

アクセス度によるグループ

グループ	アクセス			所得	書籍価格
A	最良	0.028 0.062 0.075 0.076 0.095 0.12	日本 (b) アメリカ (b) オーストラリア イギリス (b) オランダ スイス	大	中
B	良	0.13 0.139 0.167	トルコ ネパール イラン	中・小	安
C	中上	0.21 0.26	オーストリア ルクセンブルグ	大	高
D	中下	(0.17 0.267 0.3 0.45 0.47 0.49	メキシコ) チュニジア アルジェリア レバノン ブラジル シンガポール	中	中
E	悪	0.57 0.58 0.66 0.74 0.78 0.808	ザンビア ケニア タイ インドネシア カメルーン 南アフリカ	小	中
F	最悪	1.14 1.36 1.65 3.69	フィリピン ナイジェリア パキスタン インド	小	高

注) 27カ国のうちメキシコだけが上のアクセス順グルーピングにおいて仲間と離れている。この表が作られた以後の著しい経済発展により、現在では、はるかに低率を達成しているケースがあることに注意。

神奈川大学『国際経営論集』No.9 (1995. 8) 論文“東南アジア出版市場の量的測定”(箕輪成男)より

(表 4)

1995 年出版関係バーゲンブック・フェア。

2月	東京国際ブックフェア'95を幕張メッセで開催。非再販本も販売。
3月	情報流通研究会 (IDI) の会員 11 書店が 21 店舗でバーゲンブック・フェア開催。
4月	中央社「第3回フレッシュブックフェア」を本社で開催。時限再販本の販売も実施。
4月	東京サン・ジョルディフェスタでバーゲンブック・フェア実施。出版社が搬入販売した方式と取次として八木書店が参加した委託 (買切り含む) 方式の2種。
5月	日販、同日を皮切りに全国6会場で開催する「本と遊ぼうこどもワールド'95 児童図書展示」において、非再販本を販売。
5月	有隣堂・横浜などの3会場で「新古本のバーゲンブック・フェア」を開催。
6月	リプロ池袋店でバーゲンブック・フェア開催 (第2回)。
7月	日販「児童図書展」名古屋で開催。自由価格本フェアも実施。
10月	神保町ブックフェスティバル開催。バーゲンブック・フェアも実施。

『出版指標 年報 1996 年』(全協・出版科学研究所)

『出版年鑑 1996 年』(出版ニュース社) より

- ☐ この他バーゲンコーナーの常設店として、アシーネ (150 店舗)、ブックランドカシミ店 (3 店舗)、前橋文真堂書店チェーン (50 店舗) ほか。
- ☐ 全国のデパート等の 80 社 600 店舗でバーゲンブック・フェアを開催、または開催していく。

※1994 年以前は、東京国際ブックフェア、神保町ブックフェスティバル、リプロ池袋店で行った第1回バーゲンブック・フェア程度である。

人文会会員名簿

(〒111 台東区蔵前 2-5-3 筑摩書房内)

1996. 12. 現在

	社 名	担当者	〒	所 在 地	電 話	FAX
	青 木 書 店	古川 清	101	千代田区神田神保町 1-60	3219-2341	3219-2585
	大 月 書 店	原田 敦雄	113	文京区本郷 2-11-9	3813-4651	3813-4656
幹 事	御茶の水書房	平石 修	113	文京区本郷 5-30-20	5684-0751	5684-0753
	紀伊國屋書店	安藤 正	156	世田谷区桜丘 5-38-1	3439-0128	3439-3955
	勁 草 書 房	氏家 富男	112	文京区後楽 2-23-15	3814-6861	3814-6854
幹 事	社会思想社	清水 博	113	文京区本郷 3-25-13		
				中銀本郷3丁目ビル	3813-8105	3813-9061
	春 秋 社	鈴木龍太郎	101	千代田区外神田 2-18-6	3255-9611	3253-1384
	晶 文 社	島田 孝久	101	千代田区外神田 2-1-12	3255-4501	3255-4506
	誠 信 書 房	濱地 正恵	112	文京区大塚 3-20-6	3946-5666	3945-8880
	創 元 社	重光 義彦	162	新宿区山吹町 334-11	3269-1051	3269-1092
	草 思 社	浴野 英生	150	渋谷区神宮前 4-26-26	3470-6565	3470-2640
代表幹事	筑 摩 書 房	菊池 明郎	111	台東区蔵前 2-5-3	5687-2680	5687-2685
	東京大学出版会	吉田 信夫	113	文京区本郷 7-3-1		
				東京大学構内	3811-8814	3812-6958
幹 事	日 本 評 論 社	後藤 光行	170	豊島区南大塚 3-12-4	3987-8621	3987-8590
幹 事	福 村 出 版	土屋知可夫	113	文京区本郷 2-30-7	3813-3981	3818-2786
	平 凡 社	藤代 俊久	152	目黒区碑文谷 5-16-19	5721-1234	5721-1239
幹 事	法政大学出版局	市川 昭夫	162	新宿区市谷田町 2-14-1	5228-6271	5228-6010
	み す ず 書 房	福田 晴行	113	文京区本郷 5-32-21	3814-0131	3818-6435
	ミネルヴァ書房	杉田 啓三	607	京都市山科区日ノ岡堤谷町 1		
				(075) 581-5191 (075) 581-0589		
			101	千代田区神田錦町 3-6	石澤ビル 3 F	
					3296-1615	3296-1620
	未 來 社	吉田 哲夫	112	文京区小石川 3-7-2	3814-5521	3814-8600
幹 事	雄 山 閣 出 版	武 一雄	102	千代田区富士見 2-6-9	3262-3231	3262-6938
	有 斐 閣	田村 謙二	101	千代田区神田神保町 2-17	3265-6811	3262-8035
	吉 川 弘 文 館	阿部 昇	113	文京区本郷 7-2-8	3813-9151	3812-3544

販売企画委員会 ◎清水 ○吉田 (信) 氏家 杉田 田村

調査・研修委員会 ◎平石 ○原田 重光 藤代 福田

図書館委員会 ◎市川 ○島田 安藤 濱地 阿部

弘報委員会 ◎土屋 ○吉田 (哲) 古川 鈴木 浴野

永原慶二・中村政則編

四六判/2266円

歴史家が語る

戦後史と私

歴史家は、激動の戦後をいかに生き、さまざまな体験を通して同時代をどのように認識し、自らの学問に反映してきたか、それぞれの学問の原点を語る。第一線の歴史家64名が、率直なエッセイで綴る戦後史・学史への証言集。

吉川弘文館

東京都文京区本郷7-2・電03-3813-9151

●クレムリン最深部での政治的葛藤

スターリン

(編) ライスリー
アレクサモワ
オレクシツニコフ

極秘書簡

モロトフあて・
一九二五—二六六年

ソ連の劇的な転換期にスターリンがモロトフにあてて書いた手紙86通を収録。独裁的権力がどのように実現したか、政治的ライバルはいかに排除されたか。20世紀史最大の謎に迫る極秘資料を日本に初めて公開。A5判・5974円

大月書店 東京都文京区本郷2-11-9
電話03(3813)4651(代表)

佐伯胖／中西新太郎／若狭蔵之助(編)

フレネの教室1

学びの共同体

子どもの発意にあふれる教室 説明と
練習から表現と創造へ! ●¥2266

フレネの教室2

生活から学びへ

日本の前衛的な教師たちが研究し年
月をかけて育ててきた実践! ●¥2266

石田一宏(著)

子どものいじめを考える

いじめをのりこえ(生きる力)をみつけれ
いく子どもたちとともに歩みたい●¥1648

青木書店

東京都千代田区神田神保町1-60 税込
TEL[03]3219-2341 FAX[03]3219-2585

社会史の魅力

神奈川大学評議書 第七巻 A5判・二〇〇頁 価格税別二五〇〇円
『世界史の転換と歴史の読み直し』(加藤周一・網野善彦)はじめる
運動史、宮田博弘、山本道、石井美樹子、岡島千幸氏の論考。

◎平成八年度(第32回)日本翻訳出版文化賞受賞ノ
韓国の民族文学論 東アジアの
連帯を求めて
崔元植(著)・野柳博子(訳) A5判・価格税別三二〇〇円
日本は新しい東アジアを形成するハートの波を伝える貴重な訳著。
アジア各国で進む文学史のとなえなおしの波を伝える貴重な訳著。
『ア

フェミニズムと労働の間

コンパラル・ウー・運動の歴史
リンダ・グレン・著・森下千美・島崎洋子・川島義孝・
中川マミ・伊藤歩・杉原ヤス子 A5判・三四〇頁・五三六円

御茶の水書房

東京・文京区本郷5-30-20 ☎03-5684-0751

危険な純粹さ

ベルナール＝H.レヴィ

立花英裕訳 ベルリンの壁崩壊、ネオ・ナチの台頭……民主主義は本当に勝利したのか。世紀末の現在、「純粹さへの意志」の危険について警鐘を鳴らす。●定価2200円

ソクラテスのカフェ

マルク・ソーテ

堀内ゆかり訳 パリのカフェで一般の人を対象に哲学論議を主催、東京での2カ所のカフェ・トークで話題を読んだ哲学者が、日常の言葉でやさしく語る●定価1600円

紀伊國屋書店

出版部：東京都世田谷区桜丘5-38-1
TEL03(3439)0128(営業) 表示価格は税込み

すしの美味しい話

中山幹著 日本の食文化としてはぐくまれてきた鮭の歴史とエピソード。初のすし変遷史★一八五四円

カインシャは不思議

外国人OLの銀行日記

C・リード／柴原他訳 大手国際銀行の不可思議な内情を皮肉とユーモアをまじえて綴る★一八五四円

カレル・チャペックの闘争

田才益夫訳編 先見性に満ちたコラム★二五〇〇円

社会思想社

東京都文京区本郷3 ☎03-3813-8101

◆好評新刊◆

鏡の中の迷宮

シェイクスピアは隠れカトリックだつた？ ●ミルワード／中山理・安田悦子訳 2060円

陰陽道物語

●滝沢解 2266円

ハーモニカの本

●斎藤寿孝・妹尾みえ孝 1957円

春秋社 101東京都千代田区外神田2-18-6 ☎3255-9611 <定価は税込>

江原由美子 編

生殖技術とジェンダー

フェミニズムの主張3 自己決定権をどう考えるか。 3708円＋340

フェミニズムの主張 2781円＋340

性の商品化 フェミニズムの主張2 3090円＋340

瀬地山 角

東アジアの家父長制

ジェンダーの比較社会学 性別による制約からの自由。 3296円＋340

Ch.デルフィ／井上・加藤・杉藤訳
なにが女性の主要な敵なのか
ラディカル・唯物論的分析 抑圧と差別の構造を探る。 5356円＋340

勁草書房

東京都文京区後楽2-23-15 * 価格税込
電話3814-6861 振替00150-2-175253

早川和男 編集代表

講座 現代居住

全5巻 完結

●各巻 3914 円(税込)

大本圭野・戒能通厚編

1 歴史と思想

岸本幸臣・鈴木晃編

2 家族と住居

鈴木浩・中島明子編

3 居住空間の再生

早川和男・横田清編

4 居住と法・政治・経済

内田勝一・平山洋介編

5 世界の居住運動

東京大学出版会

113 東京都文京区本郷 7 TEL03-3811-8814

鶴見俊輔座談

全10巻/完結

半世紀にわたる対談座談を集成。21世紀を生きる思想の種子がここにある。

四六判・平均450頁・定価各3800円

●全10巻

日本人とは何だろうか(3刷)

思想とは何だろうか(3刷)

学ぶとは何だろうか(2刷)

近代とは何だろうか(2刷)

文化とは何だろうか(2刷)

家族とは何だろうか(2刷)

戦争とは何だろうか

民主主義とは何だろうか

社会とは何だろうか

国境とは何だろうか

晶文社

東京都千代田区外神田2-1-12
電話03(3255)4501(定価税込)

D・P・タム&D・A・レーン／編

いじめ

の発見と対策

——イギリスの実践に学ぶ

1957 円

警告!

早期教育が危ない

「ボク、だるい」——心療内科や精神科に母親につれられて相談にくる子どもが増えている。彼らの多くは、幼少期から学習塾の優等生で、親からみれば、育てやすい「いい子」だった……

「朝日新聞・毎日新聞」教育欄で大きく紹介された話題の本
高良 聖／編著
臨床現場からの報告

1648 円

日本評論社

豊島区南大塚3-12-4 ☎03-3987-8621

自然・人間・宇宙…

ルドルフ・シュタイナー 遺された黒板絵

ワタリウム美術館監修
高橋巖記

いまや一個の完成した抽象画として評価されているシュタイナーの黒板絵107点をオールカラーで収め、その全貌を初めて明らかにする。カンディンスキー、クレーもこの講義に多大な影響を受けた。A4横長判 定価4841円(税込)

筑摩書房

お問合せはサービスセンターへ 電話048-651-0053

法政大学出版局

(表示価格は税込)

啓蒙のユートピア

・野沢 協・植田祐次 監修 (全三巻／各巻A5判上製)

第1巻

フランス啓蒙期の社会構想あるユートピア作品十八編を集成。本巻はフオワニ「南大陸」に知られる「等六編収録。二万二千六〇円

◎第32回日本翻訳出版文化賞受賞!

現代哲学の主潮流

・W・シュテークミューラー／中楚 肇・竹尾治一郎 監修

全5巻

現代哲学が追求してきた主題と主要な思想潮流を俯瞰する。①四四二九円／②三九一九円／③六一八〇円／④三三九九円／⑤七五一九円

162 東京都新宿区市谷田町2 ☎03-5228-6271

《最新刊》

手話でシャンソン!

声のない恋

貞広邦彦監修 朝倉まき著

生きることの喜びや哀しみ、恋に揺れる心を心の声「手話」で歌ってみませんか。独学の手話を交えたシャンソンで多くの心を感動させた朝倉まきさんが、シャル・アズナール「声のない恋」などシャンソンの名曲の世界にあなたを誘います。

A5判・定価一六四八円

脱・会社人間

ビジネスマンのための人間関係学

田尾雅夫著

組織べつたりの会社人間はもういらない。会社の壁や煩わしい人間関係を乗り越えて、すいすいと会社生活を送るための仕事術と人間関係術を、社会心理学者がビジネスマンに発信する。四六判・定価一六四八円

福村出版

東京・文京 本郷 2-30-7

電話 (03) 3813-3981

定価は税込

忽ち

白川 静

字通

漢和辞典の最高峰

3刷!

漢字

の奥深い魅力の世界へ。これを座右の書、引いて

学び、読んで楽しんでます「五十音順配列なので使いやすく便利」と読者から絶賛の声、続々。見出し漢字約1万字、熟語約22万語、B5判、約2300ページ。●特別定価19,800円(97年3月末まで)

字統・9,500円
字訓・18,500円

重版
出来!

平凡社

〒152東京都目黒区碑文谷5-16-19 ☎03-5721-1234 ●価格は税込定価

為すところを知らざればなり

ジジエ 民族とは、国家とは、ラカンを通してヘーゲルを再読しつつ〈冷戦以後〉に迫る刺戟作。鈴木一策訳、五五五円

バーデンハイム 1939

アッペルフエルド ウィーンにはど近い保養地にナチの手が及び寄る。カフカを彷彿とさせる小説。村岡繁光訳、三三六円

文明の文法

II 世界史叢書

ブローデル 歴史の本質を的確につかむアナル派の泰斗がリセの学生に向けて説くヨーロッパの貌。松本雅弘訳、四四四円

デュシャンノ寸秒夢

デュシャンを巡る旅。シュレアリストたちに寄せる瑞々しい言葉。夢日記。虹彩を放つ寡黙な詩人の贈りもの。五五五円

東京文京本郷 5丁目32-21

みすず書房